

## 2025年度 第3回研修会報告

日 時：2025年9月21日 君ヶ畑駐車場 10:00 集合～同 15:30 解散

場 所：東近江市君ヶ畑町 御池林道岩尾谷口～君ヶ畑

参加者：小西、梶谷、森上、膽吹、高橋(報告)

観測史上最高の猛暑が記録され、この夏はいつまで続くのかと訝しく思っていたのですが、第3回研修会を実施した9月21日(日)には突然の秋がやってきました。御池林道には涼しい風が流れ、昨日までの暑さを忘れさせてくれました。観察した植物のなかでも、秋の気配を見せている花や果実を主に報告します。「小さい秋見つけた」研修会でした。



御池林道



ススキ原



ボタンヅル (実)



ボタンヅル (花)



レモンエゴマ

ボタンヅル(キンポウゲ科)は御池林道一带に生えており、花は散って実を付けていました。花期は夏、ようやく見つけた花。シソ科のレモンエゴマは葉も花もシソに似ています。葉にレモンの香り。



クモキリソウ(ラン科)      アキチョウジ(シソ科)      イガホオズキ(ナス科)      棘だらけの実

クモキリソウは初夏に淡緑色の地味な花をつけ、この時季は花柄(ずい柱?)が長く残っています。アキチョウジは初秋の花期を迎えています。イガホオズキの実はホオズキの仲間では珍しく皮で包まれておらず棘が特徴のホオズキです。



ミカエリソウ(蕾)      と      虫喰葉      イタドリ 葉脈の虫喰      サルナシの虫喰葉

ミカエリソウ(シソ科)は木質化し低木とされています。名前の由来は、思わず振り返ってみるほど花が美しいからと言われていますが、図鑑で見る限りそれほど... それより、葉が葉脈だけ残して無残に虫に食われていました。秋には葉が虫に食われることが多いのでしょうか。イタドリの葉脈部分の虫喰やレースのようになったサルナシの葉が観察できました。



スズカアザミ(蕾)      と      花      ベニバナボロギク

スズカアザミもベニバナボロギクも鹿が食べないので、御池林道のあちこちに生えていました。



ヤマジノホトトギス(ユリ科) 花 と 実

ハダカホオズキ(ナス科)

ホトトギス類は花があまりにもユニークなので花ばかり注目していましたが、こんな実がなることを知りました。単子葉植物の特徴である3数性で、実には3稜あり内部は3室に分かれ種が積み重なっている。

(右の写真は、熟した実と3室に分かれた断面。 WEB から掲載)



皮に包まれていないホオズキをもうひとつ、まさに裸のホオズキを見つけました。



オクマワラビ(オシダ科) 胞子嚢は葉先の小羽片に配置

ヒカゲノカズラ 胞子嚢穂

シダ植物も胞子を飛ばす季節のようです。



オオバアサガラ

フサザクラ

シロモジ

オニドコロ

実りの季節。たくさんの果実を見つけました。

ヤマノイモの仲間のオニドコロは似ているが、ムカゴを付けない、芋(根茎)に毒がある、種子の翼はカエデ類のように片側に伸びるなどの違いがあります。



キクバヤマボクチ(キク科)



蕾



葉裏



花 (WEB から転載)

今回の研修でもっとも興味深かったのはキクバヤマボクチです。漢字で書くと「菊葉山火口」火口(ほくち)とは、火を起こすとき火を移しとる燃えやすいものこと。葉裏が白いのは綿毛が密生しているためで、この毛を集めて火口にしたそうです。根元に近い葉は菊の葉のように切れ込みがあるのですが、上部の葉には切れ込みがありません。蕾に長いひげが密生しています。どうもキク科の頭花の下にある総苞のようです。ネットで調べたら右写真のような少し不気味な花でした。



シラキ(トウダイグサ科)



オトシブミの揺籃?



揺籃を開くと幼虫?

オトシブミ類には多くの種類があるのですが、シラキの葉で揺籃を作る種があるのだろうか?



アケボノソウ 蕾



花



花片に緑色の蜜腺 蟻が蜜を舐めに来る

アケボノソウ(リンドウ科)も林道内各所にみられた。はじめは蕾ばかりだったが、林道終点近くに花を発見。



ミヤコミズ(イラクサ科)



ミヤコミズ 花



オオカニコウモリ(キク科)

ここに挙げた3種は小西研修担当が比較的珍しい種として報告されたものです。3種とも花期が秋となっていて、幸い花の写真が撮れました。

ミヤコミズは、滋賀県の希少種とされています。ですが、御池林道沿いにやたらと生えていました。(希少種かな?)

大きな鋸歯のある赤っぽい葉が特徴。

オオカニコウモリは、歪な五角形の大きな葉が蟹の甲羅に似ているのが特徴。キク科とは思えない花を付けます。

オオカニコウモリの花 ⇒



カリガネソウ(シソ科)

カリガネソウは、花の形が飛ぶ雁に似ていると名付けられたとのこと。長く伸びて湾曲しているのは4本の雄蕊と花柱。蜜を求めてやって来る蜂や蝶の背に湾曲した雄蕊と花柱の先が触れて、受粉や花粉運びに役立っています。葉は対生し、開花期が近づくと独特の匂いがあります。

⇐長く伸びた雄蕊と花柱



3種とも林床、林内、谷沿いの多湿の環境を好んでいます。

御池川河原で昼食



参加メンバー